SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

地学教材のスライド化

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 伸一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025342

静岡地学　第66号（1992）

浮遊性有孔虫からみた富士川中流地域の層序

植　松　征　矢*

はじめに

静岡県中・東部から山梨県南部にかけての富士川流域には、新第三系が広く分布しており、この地域の地質学的研究は、井上（1934）、大塚（1939～1955）、松田・水野（1955）、松田（1955～1961）、徳山（1971）等多くの人々によってなされている。

この地域の浮遊性有孔虫化石の研究については、身延以北の富士川上流地域において氏家（1976）、千地・紺田（1978）、狩野・北里・鈴木（1985）、尾田・秋元（1987）等なされているが、身延以南については、茨木（1981）など数が少ない。今回、主として富士川中流地域の新第三系で採取された浮遊性有孔虫を検討した結果と、比較検討のためこの地域と連続する富士川上流地域の富士川左岸の地層について（若干の地点で）調査した結果を報告する。

なお、調査はまだ継続しており、地質図が完成していないのでこの地域の地層名については松田（1961）に従うものとする。

この調査にあたり、浮遊性有孔虫の鑑定について御指導と御助言をいただいた東北大学理学部の斎藤常正教授と研究助成金をいただいた財団法人静岡県学術教育振興財団に厚く御礼申し上げる。

試料の処理

主として硫酸ナトリウム法を用いて処理した。硬い岩石についてはこの方法を繰り返し行った。試料は地層と直交するルートに沿って採取し処理したが、変質していたり、硬かったり、内部まで風化がすすんでいたりするものが多く、予期していた以上に有孔虫が採取できなかったため、地層の境界の時代についてはほとんど決定できなかった。

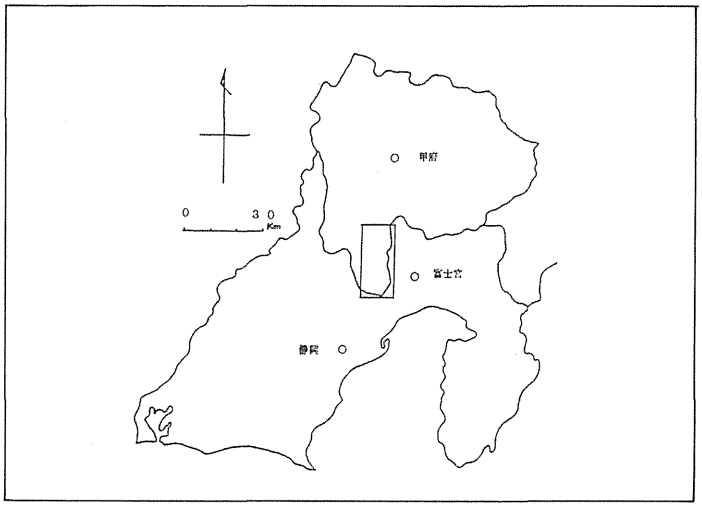

図1　調査地域位置図

結果と考察

◆富士川上流地域

和平凝灰岩はN 10、出口凝灰質砂岩泥岩層はN 11、竹の島砂岩泥岩層の最下部がN 13、波高島泥岩層がN 14、椿草里西の互層が、N 10からN 13の間、波木井互層の下部がN 16、鷹取火砕岩中の砂岩と泥岩の互層がN 17初期と判明した。

*県立教育相談センター

従って、出口凝灰質砂岩泥岩層と竹の島砂岩泥岩層にはさまれたびょうぶ岩凝灰岩は、N 11からN 13までの間、竹の島砂岩泥岩層と波高島泥岩層にはさまれた上之平互層はN 13からN 14の間、波高島泥岩層と波木井互層にはさまれた丸滝礫岩層はN 15かN 16と推定される。鷹取山火砕岩を噴出させた主な火山活動はN 16からN 17初期の間であろう。

◆富士川中流地域

相又川・船山川・戸栗川地域（富士川右岸）

船山温泉付近の久遠寺泥岩層はN 9で、今までの見解と異なり、勝坂泥岩層に対比されることがわかった。この地域では久遠寺泥岩層の上に鷹取火砕岩N 17初期が直接重なっているので、少なくともこの地域では、久遠寺泥岩層と鷹取火砕岩の関係は不整合である可能性がある。

内船北部地域

内船駅の北、高岡付近の林道には背斜構造が存在するが、その軸付近の互層はN 9で勝坂泥岩層に対比され、この林道の北方の互層はN 9からN 10であることがわかった。また、内船北東の泥岩と凝灰質砂岩の互層はN 13〜14頃であることがわかった。

内船駅北東に分布する十島互層は、竹の島互層か上の平互層に対比され、この地域では、N 9からN 16までの地層が整合的に分布しているものと思われる。

寄畑から芝川までの富士川左岸

この地区での富士川層群万沢累層中の十島互層は、遅くともN 12からN 16まで連続していることがわかった。万沢互層はN 17が主であり、町屋互層はN 17であった。また、万沢累層中の福士凝灰岩はN 17 Bであった。

この地区の十島互層の堆積が遅くともN 12であるということは、十島互層の下部が西八代層群に対比されることになり、富士川上流地域(松田1961の北部)の富士川層群の堆積の始まりであるN 13と一致しない。

寄畑火砕岩は、その直下の十島互層がN 16なので鷹取火砕岩と同様N 16からN 17初期の間の噴出物であろう。

南部・富沢地区（富士川右岸）

富士川右岸付近に分布する徳間互層はN 16とN 17であり、福士川沿いも同じである。しかし、釜の口付近の戸栗川右岸に分布する徳間互層はN 10上部であり、徳間互層ではなくて船山温泉付近の久遠寺泥岩層の上位層である可能性もある。

天子ケ岳地区

天子ケ岳付近は南北性の向斜構造をなすが、南西の互層はN 16からN 17であり、南端の上稲子塩野の互層はN 14である。

まとめ

まだ不明の点があるが、今回の調査から富士川上流地域と連続する富士川中流地域の層序をまとめてみたのが表1である。

なお、大まかであるが、堆積時代の判明した地層を、その走向に沿って延長してみたのが図2である。この図により、この地域に分布する新第三系は、図3のように区分されそうである。

表1

時代区分		今回の調査（植松）						N
		中富・下部・身延	相又・船山・戸栗川（富士川右岸）	内船北部地区（富士川左岸）	南部富沢地区（富士川右岸）	寄畑・井出・十島 稲子・芝川（富士川左岸）	天子ケ岳 上稲子	
鮮新世	N19							19
	N18							18
中新世	N17	鷹取火砕岩 波木井互層	鷹取火砕岩	波木井互層	徳間互層 町屋互層 万沢互層	福士凝灰岩 寄畑火砕岩	天子ケ岳火砕岩	17
	N16							16
	N15	丸滝礫岩層		丸滝礫岩層		十島互層	丸滝礫岩 十島互層	15
	N14	波高島泥岩層 上ノ平互層		十島互層				14
	N13	竹ノ島互層						13
	N12	屏風岩凝灰岩		?				12
	N11	出口・互層				?		11
	N10	和平凝灰岩						10
	N 9	勝坂泥岩層	久遠寺泥岩層（勝坂泥岩層）	勝坂泥岩層				9
	N 8							8

表2

時代区分		地層区分				松田（1961）								N
						北部			中部			南部		
中新世	後期	富士川層群	上部層	上部		曙れき岩				川合野れき岩		浜石岳れき岩	貫ケ岳れき岩 高瀬互層 高根山火砕岩	N17
						静川砂岩層								
				下部	身延累層	烏森山火砕岩	相又累層	鷹取火砕岩	篠井山火砕岩	寄畑火砕岩				
						手打沢泥岩層		月夜凝灰岩						
						波木井互層		篠井山火砕岩						
						丸滝れき岩		寄畑火砕岩						
						八木沢泥岩		葛沢火砕岩						N16
	中期		下部層		しもべ累層	波高島泥岩層	久遠寺泥岩層		徳間互層	万沢累層	福士凝灰岩	小河内累層		N15
						小内船火砕岩					町屋互層			
						上之平互層					万沢互層			
						竹之島砂岩・泥岩互層					十島互層			N 9
	前期	西八代層群			常葉累層	醍醐山累層	びょうぶ岩凝灰岩層		御殿山累層					N 8
							出口凝灰質砂岩・泥岩互層							
							上一色火山角れき岩層							
						一之瀬累層	和平泥岩層	安山橋岩						
							勝坂泥岩層	月見橋岩						
						古関川累層								

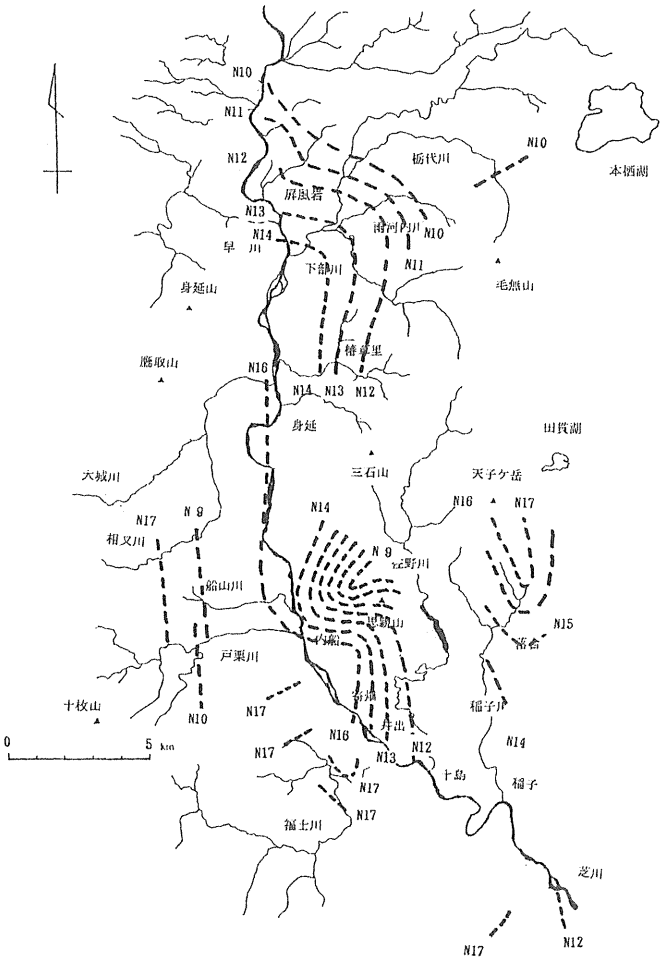

図 2

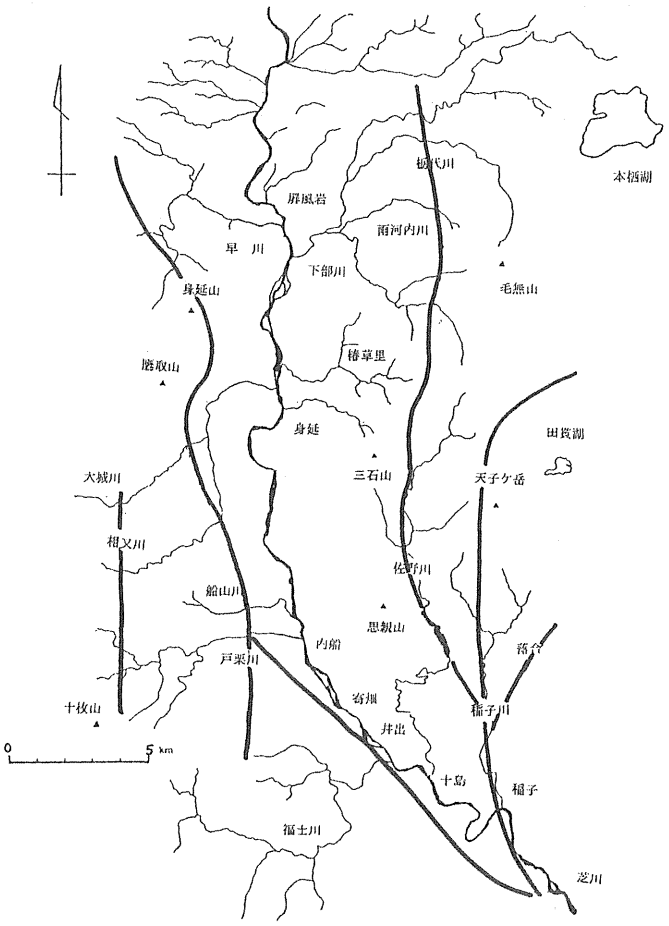

図 3

文　献

◇松田時彦（1961）：富士川谷新第三系の地質．地質雑，67，79～96．

◇西宮克彦・植田良夫（1976）：山梨県の新第三系について～特にグリーンタフ変動地帯における層序と地質年代学的研究～．地質学論文集，No. 13，349～366．

◇千地万造・紺田功（1978）：富岡層群および西八代層群・静岡層群の浮遊性有孔虫による生層序～カプラン階についての考察～．日本の新生代地質，池辺記念論文，73～92．

◇茨城雅子（1981）：浮遊性有孔虫による南部フォッサマグナ新第三系の地質年代．地質雑，87，47～49．

◇尾田太良・秋本和実（1987）：南部フォッサマグナにおける浮遊性有孔虫化石による地質年代．日本古生物学会（1987）年会講演．